



「もう一度ふるさとに住みたい」 わたしたちの活動は心の復興支援

昨年10月23日に発生した新潟県中越地震。それまで愛知県内の災害救援ボランティア団体やNPOなど、勉強会を通して連携していた「災害Vネットあいち」の有志が、深刻な被害を受けた新潟県川口町田麦山地区で支援の必要があることを確認したため、「あいち中越支援ネットワーク」を開設し、活動を行うことになりました。

ただし、この地区は棚田の並ぶようなまちで、昔ながらの土地柄もあり、当初ボランティアへの理解がまだできておらず、わたしたちへの要求も多くありませんでした。おそらくためらいがあったんでしょうね。しかし、活動が続け何度も顔を会わせるうちに、ようやく受け入れてもらえるようになり



束がいかにかに重要かを知ってましたから、それをなんとか伝えたいと。いろいろなイベントや、もともと現地で行われていたお祭りなどをなんとか開催しながら絆を深めていきました。その結果、



たけゆき
● 天野竹行さん(40)

NPO愛知ネット理事長。同団体が加盟するあいち中越支援ネットワークが防災功労者防災担当大臣表彰を受ける。

筆者のつぶやき

理事長を務めるNPO愛知ネットは、今年からオープンした安城市民活動センター(わくわくセンター)の管理・運営も行っています。天野さんは金曜日夜の担当。「花の金曜日だけど、メンバーに羽を伸ばしてもらうため、しょうがないからわたしが我慢してるんですよ(笑)」その言葉に、チームワークの良さとリーダーとしてのやさしさがチラリ？

地震の直後はまちなに残ると話していた人が4割だったのに、現在は9割へと変わってきました。

今回こうした活動が認められ、防災功労者防災担当大臣表彰を代表して受けることになりましたが、この活動は64人のみなさんの協力があつて成立しました。そして何より今回強く感じたのが地元企業の協力です。企業の考え方が変わってきていて、営利を伴わないこのような活動に対しても支援をいただけるようになっていきます。NPOやボランティアだけの活動にはやっぱり限界があるんですね。例えば今回のような賞をいただくことで、それが地元愛知の評価を上げ、結果としてわたしたち一人ひとりに還元される。あまりクローズアップされませんがこうした企業のみなさんの見えない努力を忘れてはいけないと思います。